

市民環境大学OB会 ニュースレター



第24号 2019年1月17日 発行 2019年初春 黒川清流公園の南天

黒川清流公園での湧水量調査 1年がまとまる！

OB会では従来より日野市湧水調査を継続しているが、環境情報センターが黒川清流公園横に新設されたため、従来の谷仲山周辺から黒川清流公園に測定場所を移している。当初、測定方法については試行錯誤をしていたが、2018年1月からはプロペラ式流速計に統一し1年が経過した。よって1年間のまとめを行うことになり、測定メンバーの一人である原田さんに以下報告して頂いた。

《投稿》 黒川清流公園の湧水量測定 の 1年を顧みて OB会 原田 武司

私たちOB会が黒川清流公園地区内の湧水量測定にデジタル流速計を導入して1年を経過したのを期に総括してみました。昨年は黒川清流公園の湧水群にとってマンション建設に伴う湧水白濁及び湧水枯渇という激動の1年でありました。測定データとの関係でその原因を探ろうとしましたが現在までそれらを立証する手掛かりを捉えるところまでには至っていません。僅かにわきみず池で8・9月連続での流水量の低さをマンション建設との関連を疑われますが確証はありません。

測定条件 測定地点：公園西から清水谷公園、剣道場前、郷土賞橋下、わきみず池の4カ所

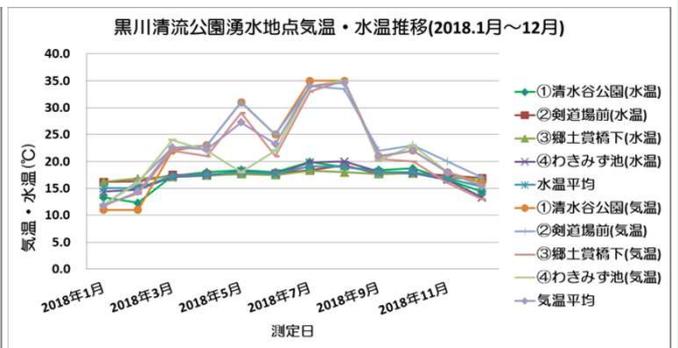
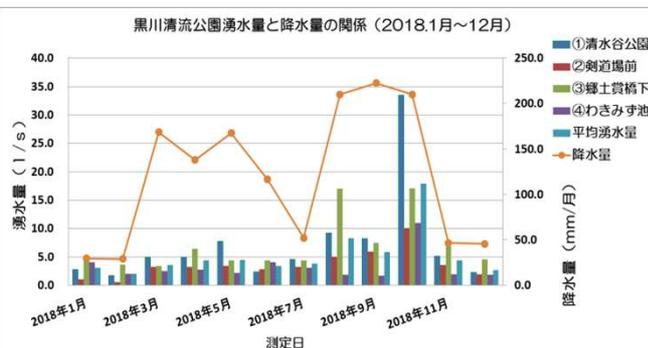
測定項目：湧水量、水温、気温、電気伝導度、比較：八王子アメダスの降水量、日野市内降水量

測定期間：1月から12月の各月

測定結果と概要 月毎の各地点湧水量と降水量、気温水温の推移をグラフ化しました。

- 湧水量が1(l/s)以下と低かったのは清水谷公園の2月、剣道場の1月2月、わきみず池の8月9月11月郷土賞橋下ではゼロとバラツキが顕著です。2桁の流水量を記録したのは郷土賞橋下の8月及び10月は全測定地点で突出して観測されました。降水量との関係ではアメダス降水量（オレンジ折れ線グラフ）とは明確な関係が見れず、OB会員が測定している降水量との関係でも（1日平均降水量、測定日前日の3日間1週間の降水量）それぞれ湧水量との比較を試みるも各地区の保水力の差の裏付けも得られません。
- 水温（グラフ右）は各地点で気温に比較し15度から20度の範囲で一定しています。

現在は一部の人だけが行っている測定を誰もが操作できるようマニュアルの見直しやCOD(水質検査)の必要性を含めデータの信頼性を向上させる努力も進めています。大自然の営みを解明するには3年5年といった長いスパンで観測をし続けることが大切であることを改めて実感し、これらを教訓に私たちOB会は今後も未永く観測を続けてゆくつもりです。



黒川清流公園 湧水汚染問題のその後！

OB会では黒川清流公園の湧水白濁及び流量の大幅減少を重大な問題と捉え、事業者への改善指導を求め、請願書を市議会議員の協力を得て提出を検討中です。一方で、今回の問題に対し日野市主導で「日野市豊田緑地保全地域湧水対策検討委員会」が構成され、第1回の検討委員会が11月22日に開催されました。委員会は5名の専門委員及び東京都、日野市、事業者で構成され、解決策が議論されました。第2回は年明けの1月9日の予定です。現在マンション建設現場は重機も撤去され工事が中断しているようですが、湧水汚染や流量枯渇とならないような早急な対策が待たれます。

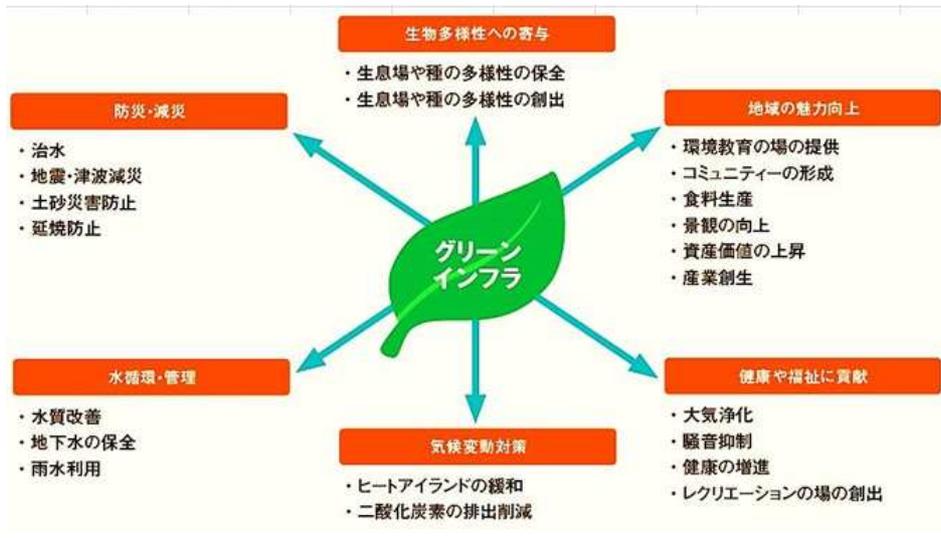
[OB会コラム]

投稿 「地球温暖化の低減に向けて、私たちにもできること」-2

OB会 藁谷 敏

市民の共感を得る自治体のグリーンインフラの整備により、ヒートアイランドの抑制などの環境への効果と共に、健康の促進、環境教育、レクリエーションなどの市民活動への効果が期待できます。私たち市民にとっても、身近な自然の保全のために係われることは各種に亘りある筈です。例えば、植物の保護と保全のためにゴミ類の放棄物の管理と排除などに務めてみる。小水路の縁周りや荒地への植栽をする。無降雨の日が多い時には近隣の緑へ水掛を行うなど。私たち個人や仲間との独自の取組や、自治体の広報を通じて共同参加への呼びかけ、及び市内にある多数の自治会がそれぞれに主体となり地区内の環境保全に住民意識を以て適宜行う、ことなど。

私たちが居住する市内から排出されるCO₂は、本年の「環境白書」のデータとして産業部門、業務部門、家庭部門、自動車からの排出部門のなかで家庭部門からの排出が約34%と最も高く温暖化の大きな要因となっています。家庭生活における節電への取り組みとして、夏の時期はクールビズ、冬の時期にはウォームビズを実践する。そして家庭内で多様に消費している家電製品の節電方法と、それにより年間を通して削減される電力の使用量と電気料金の削減額が幾らになるのかについて、環境省のHPから『クールビズ』を選択すると、大変分かり易く掲示されています。お勧めです。



OB会メンバー 活動イベントニュース

- ・ ニュースレターのバックナンバーを日野市内各所の図書館においてもらうよう依頼し了承が得られた。
- ・ 今年2回目の第83回NO₂全都一斉測定に今回も参加した。(12月6日～7日)

OB会 輪読報告 題名 森林飽和 著者 太田猛彦

12月 第三章 森はどう破壊されたか 二 産業による荒廃の加速 三 山を治めて水を治める

発行人：市民環境大学OB会 飯島利三 編集担当：OB会 尾添俊二